

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

新年あけましておめでとうございます。
今年も引き続き「らくだ図書館」をよろしく申し上げます。

それにしても、やっと 2013 年になった……！

何が「やっと」なのかというと、12月26日あたりから更新をサボっていて、新年の挨拶を書こうにも書けない状態だったからです。

しかしここで一気に更新して、やっと現実に追いつきました。

ん？
そういうのは、厳密には「毎日更新」と言わない？

かっ、数さえ足りてりゃいいんだよ！
365 個記事を載せたんだから、それで万事オーケーだ……！

それにしても、厳密には毎日更新ではないものの、投稿ブログを一年も続けたと思うと感無量ですよ。

こうなったらもう、小説家になることを諦めて、ワナビブロガーを目指そうかな、と。

本当は執筆がメインでブログはオマケのはずなんですが、なんかもう、ブログがメインの活動場所でもいいやっという気分ですね。

だって、ほら……。
メインで力を使っても、小説の方は、全然通過できませんし……。

まあ投稿はやめませんが、それと同じくらい、ブログも大事だということで。

そんなわけで、2013 年もよろしく申し上げます。
今年も毎日更新を目指して、引き続き頑張ろうと思います。

電子書籍配信サイト「パブー」に、当ブログの12月分をアップしました。

<らくだ図書館(12)>

<http://p.booklog.jp/book/63389>

それにしても、電子書籍って便利ですね。

作業の流れを理解するのに時間がかかったけど、一度わかってしまった今は、5分でブログを書籍化できるというお手軽さ。

なんというか、こういう情報発信の方法もアリだな、と思います。

つい先日は「賞で認められて本を出したい」と書いたけど、そこまで賞にこだわる必要ってあるのかなと、ここ最近うっすら疑問を感じ始めているというか……。

もちろん投稿は好きだし、やめる気持ちはないです。

でも、文章との関わり方って、他にもたくさんあるんじゃないかと。

仮に投稿をやめても、文章と関わり続けることは、他の方法でできるんじゃないかと。

……何を言ってるんでしょうね、自分は。

投稿を否定する気はないんですが、ちょっと疲れているのかもしれない。

ただ、仮に小説投稿をやめる日が来ても、文章を書くことは一生続けるつもりなので、その部分の不安は全然ないんですけどね。

というわけで。

何だかよくわからない内容になってしまいましたが、今日は以上です。

年明けの賞で通過できたら、下がり気味のモチベーションも、きっと一気に上がるはずなんですけどね……。

昨日の記事を読んだら、新年早々だっていうのに、弱気すぎるだろ自分！
「仮に投稿をやめる日が来ても」とか、何気なく、縁起でもない発言しちゃってるし！

でもこれには、理由があって。
なんで弱気かっていうと、アレなんですよ。

ものすごく面白い作品に出会ってしまうと、創作者として圧倒的な敗北感を覚えて、目の前が真っ暗になることってありませんか？

「この面白さと比較したら、自分の作品はゴミ以下だ」みたいな。
「四年も投稿を続けているのに、自分は何をやってきたんだ」みたいな。

面白い作品に出会えることは、消費者としてはハッピーなんですけど、創作者としてはツライんですね。

まあ、つまり。

弱気になった原因を一言でいうと、「とても面白い作品に出会って、それと自分を比較してしまい、一人で勝手にやさぐれていた」と。

それだけですので、どうぞご心配なく。
っていうか、弱気発言をする前に、弱気になった理由を先に書けて話ですね。

とにかくまあ、そういうわけで。

自分は足元にも及ばないと感じるのは、自分に創作能力があるからなんだと。
100%消費者の立場であれば、相手と自分を比べて、落ち込むこともないはずですし。

そう強引に思い込んで、今年も頑張ろうと思います。

Amazonを見たところ、今年のアルク翻訳事典は、1月21日発売だそうです。

第27回の発表もさることながら、第28回の課題も載るはずなので、そういう点でも発売が楽しみです。

そして、SDなんです。

「一次発表は1月ですよ」と、12月14日に、告知が出ていたんですね（汗）

応募要項のページを開いて、高橋名人並みに、F5連打していたというのに……！

それよりもまず、トップページを見るべきだったとは、とんでもない誤算だ……！

まあ、ね。

高橋名人なんて言っても、最近の若い方々は、知らないでしょうけれど。

マリオの敵はドンキーコングであって、クッパなんて新キャラだと思っている、ファミコン黎明期の人間ですが何か？

というわけで。

一人で右往左往していた恥ずかしさを、高橋名人ネタでさり気なくごまかしつつ、しかし年齢がバレて結局は恥ずかしいという、どこにも逃げ場のないロンリー羞恥プレイ。

うん。

こういうの、割と好き。

毎回そのオチですが、自虐が趣味なんだから、仕方ないじゃん……！

まあとにかく、今日はなかったから、たぶん来週発表ですね。

今から頑張ることはできませんが、無事に通過するよう祈っておこうと思います。

パプー版「らくだ図書館」の、表紙を変更してみました。

以前のうぐいす色の表紙は、製本した時の表紙をそのまま使用しており、日付が「1月～6月」になっていたので、下半期分の表紙を作ってみたというわけです。

記事内容は変わってませんが、PDFを差し替えたので、一応また宣伝しておきます。

<http://p.booklog.jp/users/rakuda-tsuneki>

今回は、梅色です。

ちなみに来月以降は、空色にする予定です。

らくだ図書館を読んで、「自分も頑張るぞ！」と、執筆意欲を燃やすのもよし。
それとは逆に、「自分はいちなりたくない……」と、反面教師にするのもよし。

ああ、そうそう。

Web閲覧は問題ないんですが、PDFの方は、微妙に枚数が多い仕様です。

本当は書籍化した時に綺麗に見えるよう、1つの記事が1ページに収まるように書いているんですが、狙いが外れて1～2行オーバーしている日があるという……。

ええ、そうなんです！

適当に書いているようですが、実はこのブログ、文字数を数えて書いてます！（得意顔）

いや、もうね。

自分は文字数あわせとか、行数あわせとか、そういうことが偏執的に好きなんですよ。

という、押しつけがましい自己主張をしたところで、今日は以上です。

今日のこの記事は、後で書籍化した時、ちゃんと1ページに入っているかなあ……。

本日は、おでかけ記事を。

神戸市立博物館で開催されている、マウリッツハイス美術館展を見てきました。

このイベントの目玉は、フェルメールの『真珠の耳飾りの少女』なんですが、さすがに日曜日だけあって長蛇の列ができていました。

っていうか、ちょっと!?

ザビエルの肖像画が公開された時は、こんなに激しく混んでなかったよね!?

(詳しくはこの記事参照)

バテレン好きというかなり特殊な嗜好を抜きにしても、春に開催された南蛮美術展は面白かったのに、人気度がまるっきり違いすぎます……。

というわけで。

マウリッツハイス展もそれはそれでいいのですが、南蛮展の時の人気と比べてしまい、ちょっとだけ寂しい気持ちになりました。



博物館を出た後は、カフェでランチを。

写真の食べ物は「スフレドリア」なんですが、説明されなきゃ、どういう食べ物かわかりませんよね。

何これ?

失敗してモワモワになったグラタン? みたいな。

お味の方は、スフレ部分がやや単調でしたが、土台のドリアはおいしかったです。

というわけで、本日は「いかにもブログらしいブログ」でした。

明日からはまた、いつものへっぽこ投稿ブログに戻ります。

今年目標を設定する前に、去年の目標って何だったっけ？

そう思って過去の記事を見たんですが、去年は目標を書いていませんでした（汗）

あれ？

書いた気がするんだけど、自分用の日記だったかな？

ちなみに去年の目標は、「前年以上の成績を出す」。

結果から言えば、初めて二次の壁を越えられたので、まあ達成はできたかなと。

そして、今年目標ですが。

うーん、そうだなあ。

今年目標は、「自分が納得できる文章を書く」かな？

ワナビ的にはよくないことかもしれませんが、自分の場合「何が何でも受賞！」という時期は乗り越したので、自分自身が納得できる文章を書くことが一番の目標だな、と。

もちろん、自分が納得できる文章を書いて、それが結果として受賞につながれば、それ以上に幸福なことはありません。

まあでも、自分が120%の力を出し切って、それでも受賞できなかつたら、それはそれで悔いはないかな、と。

どれだけ落ちようが、どれだけ酷評されようが、自分は文章を書くことが大好きで、その気持ちは変えようがない。

だからこそ、目先の結果だけを見て、一喜一憂するのはやめようと。

まあもちろん、頭でそう思っても、通ったら嬉しいし落ちたら悲しいんですけどね。

そんなわけで、2013年の目標は、「自分が納得できる文章を書く」。

地味な目標ですが、実は難しいことだと思うので、これを胸にやっつけていこうと思います。

ルルルの一次リストを見たら、あれ？

タイトルの「」カギカッコが、いつの間にか消えちゃった？

???

全部すっかり消えたってことは、元タイトルに「」はなかったんでしょうが、それなら何故最初はついていたのか、謎は深まるばかりです。

それにしても。

最近弱気な発言ばかり繰り返している自分ですが、それでもやっぱり、受賞できるものなら当然受賞はしたいです。

そうでないと、ホラ。

筆名の名刺 200 枚と、筆名のお名前シール 100 枚が、丸々無駄になってしまいますし。

コレ、単なるネタじゃなくて、リアルに作りましたからね！

本当ですよ？

証拠として、写真を撮って、ここに載せましょうか？（いらねーよ）

まあでも、名刺は机の中で眠ってますが、お名前シールは地味に便利です。

住所を書く手間が省けるので、なくなったら、また追加注文するつもりです。

そんな迷走ワナビですが、今年こそは、飛躍の年にしたいですね。

あとはやっぱり、仮に目に見える結果に直結しなくても、今年は自分が納得できる作品を書きたいな、と思います。

そういうわけで、2013 年も頑張るぞ！

ようやくお正月が終わって、本格的に1月が始まりました。

このラノやコバルトに投稿される方は、まさしく今が追い込みの時期だと思いますが、体調には気をつけて頑張ってください。

ちなみに自分は、今年はこのラノに送りません。

だって……。

五作が一次落ち（去年の実績）とか、どう考えても見込みないじゃん……。

なんかもう、ねえ？

自分の場合「デビューするなら絶対にここで！」という思いはないので、少年系・少女系・一般と幅広く色々な賞に送っているんですが、結果を見るとかなり明確な傾向があるような。

通る賞は毎年一緒だし、落ちる賞も毎年一緒。

まあ、通るといっても一次ですが、それがすなわち「相性」なのかなと。

これは、本当に思います。

通過／落選を決めるのは、応募総数でも通過倍率でもなく、何よりも相性に尽きると。

だからこそ、「応募総数が少ない＝簡単」ってことにはならないし、逆に「応募総数が多い＝難しい」ってことにもならないと思うんですよね。

まあ、だから何って話ですけど、それは前からずっと思っています。

とまあ、そういうわけで。

1月が終われば2月の富士見、その後は3月4月の締切りラッシュですが、ここでグズグズ停滞して乗り遅れないよう、そろそろエンジンをかけていこうと思います。

さあさあ、みんな寄っといで！
らくだのドM劇場が、はっじまっるよー！

というわけで。
今日は筆名の名刺画像をさらしてみたいと思います。

【その1・図書館版】



誰の許可もなく、勝手にフリーライターを名乗ってみました。

うっ、嘘はついてないよ！
自由に文章を書く人間だから、英語にすればフリーライター！

そこはもう、言ったもん勝ちということで。

ちなみに、ホームページが旅行ブログになっているのは、投稿ブログを開設するより前にこの名刺を作ったからです。

【その2・南国版】



こっちの方が、デザイン的には気に入ってます。

写真だとよくわかりませんが、透かしの入ったヤシの木のデザインが、とっても涼しげでオシャレなんですよ！（何アピールだ）

住所や電話番号の配置も、こっちの方がうまくいった感じなので、仮に人様に渡す機会があれば（仮にね！）、こっちを優先して使おうと思っています。

というわけで、今日は名刺の画像をさらしてみましたが。

これを見たブログの閲覧者さんが、「痛々しい」「気持ち悪い」「らくだは変態だ」と言ってくれていると思うと、自然と胸がドキドキしますね……！

とまあ、そんなこんなの、らくだのドM劇場＜第一回＞でした。
機会があれば、「＜第二回＞お名前シール版」もやってみようと思います。

高橋名人の16連打の話をして、誰も知らないかもしれないな……。

内心そう思っていたんですが、「ウケました」というコメントをいただいて、おおいに励まされました。

ありがとうございます！

これからも昭和の根性で頑張ります！

……って、ちょっと待てよ？

ウケたって、当時を思い出して共感したって意味ですよね！？

まさか、常木らくだの年齢にウケたわけじゃないですよね！？

後者だったら、地味に痛恨の一撃ですよ。

まあでも、ね。

これは自分へのメッセージでもありますが、年齢は気にしなくていいと思うんですよ。

20代前半で受賞している人達を見ると、確かにあせる気持ちは芽生えますけど、そうは言っても年齢って上にしか進みませんし。

だからこそ、やりたいことがあるなら、何でも思い立った時に挑戦しないと。

自分の年齢を気にして、やりたいことにブレーキをかけるのは、百害あって一利なし。

これは小説投稿だけじゃなく、すべてに言えることですよね。

留学も転職も、「今だ」と思った時こそが、最高のタイミングだと思います。

そんなわけで、ハドソンネタから、話が大きく膨らみましたが。

年齢相応に振る舞うことも大切ですが、自分の気持ちにブレーキはかけないよう、その辺のバランス感覚はしっかり持っていたいです。

一次通過していた野性時代は、残念無念の二次落ちでした。

しかし……。

せっかく本屋へやって来たのに、手ぶらで帰っては勿体ない……。

あ、そうだ！

今月の「旅の手帖」に、18 きっぷコンテストの結果が載っているはずだ！

そう思って雑誌を手に取ったら、「〇〇様、他 14 名が受賞」となっていて、自分の名前は掲載されていませんでした（汗）

モブ扱いか！

まあ入賞しただけで嬉しいから、載ってなくてもいいんだけど！

そんなわけで、野性時代にも旅の手帖にも自分の名前はありませんでしたが。
しかし今日の自分は、とてもハッピーです。

何しろ、今日 12:00～の二次発売で、四大陸 2 日目のチケットが買えましたから！

コレ、本気で嬉しいですね。

特に 2 日目分は、先行抽選でも一般発売でも買えなかったから、余計に嬉しいです。

日本で、しかも大阪で四大陸が開催されるのに、チケットが買えずに見に行けなかったなんて、悔やんでも悔やみきれないですもんね！

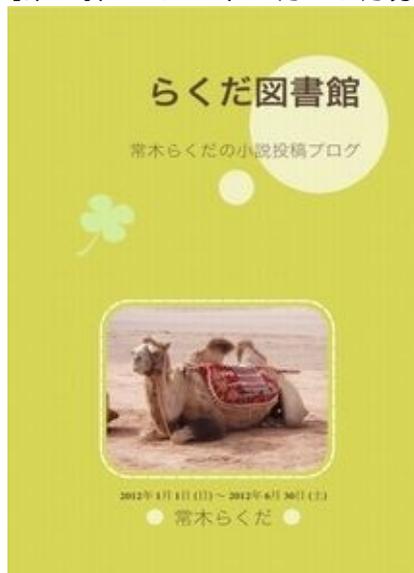
とまあ、そんなわけで。

落選した直後なのに、いつになくテンションが上がっている、常木らくだでした。

このテンションなら一次落ちも乗り切れるので、スーパーダッシュの結果が早く出て欲しいところです。

以前ブログを製本したと書きましたが ([この記事](#))、第二弾を作ってみたので、何となく紹介しておきます。

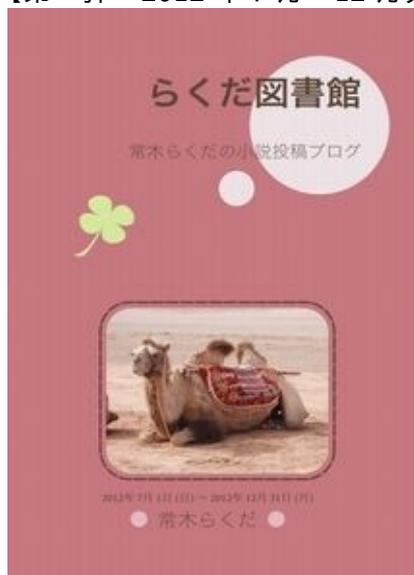
【第一弾・2012年1月～6月分】



↓↓↓

[頒布ページはこちら](#)

【第二弾・2012年7月～12月分】



↓↓↓

[頒布ページはこちら](#)

製本は有料になってしまうので、買ってくださいとは言いません。

今日の記事は宣伝ではなく、あくまでも備忘録ということで。

電子書籍版は無料ですので、まとめ読みはパブーでどうぞ！

繰り返しになりますが、アドレスはコチラです↓↓↓

<http://p.booklog.jp/users/rakuda-tsuneki>



本棚の隅に、ひっそりと「らくだ図書館」。

それにしても、本を作るには通常お金が必要ですが、逆に文章が商品になる「小説家」というのは、ものすごい職業ですよ。

自分もそういうレベルの文章が書けるよう、今後もより一層精進していこうと思います。

商品の提供がオーダーから 60 秒を越えてしまったら、バーガー無料券をプレゼントというルールを自分で作って、そしてそれを律儀に実行しているマクドナルドは、間違いなく本物のド M。



100 円のハンバーガーじゃなく、ビッグマックでもいいんですよ。
どうよ、この太っ腹すぎるド M プレイ。

でも、アレですよ。

ド M 発言や自虐発言で笑いを取るのって、心に余裕がないとできないんですよ。

気持ちが弱っている時に自虐的な発言をすると、相手からはすごく卑屈に見えてしまって、面白くないどころか悪印象を与えてしまうと思うんです。

それなら面白い自虐は何なのかっていうと、自分の欠点を十分に受け入れた上で（←ここ重要）、それを明るくネタにすることなんじゃないかと。

自分はそう信じているので、卑屈なド M ではなく、攻めるド M でありたいです。

ん？

ド M 以外の選択肢はないのかって？

それは、ないですね。

ド S な常木らくだとか、自分で想像できません。

まあとにかく、バーガー無料券をもらったので、有効活用しようと思います。

明日のお昼は、ビッグマックだ！

スーパーダッシュ、一次通過しました。

わーい、やったね！

複数通過はできなかったけれど、自分の名前があったことが嬉しいよ！

ちなみに落ちてしまった作品は、電撃で三次までいったあの話です。

これ、意外すぎる……。

落ちるならまず松竹梅だと思っていたのに……。

なんというか、アレですよ。

4年間も投稿を続けていると、次第に各賞の傾向がつかめてきて、「コレは落ちてコレは通るな」というのが、何となく予想できるんですよ。

でもその予想って、冷静に振り返ってみると、かなりの確率で外れているなと。

結果を知った後に「〇〇だから落ちた」と言って、落選理由を後付けすることは簡単なんですけど、やっぱり小説投稿って送って見ないとわからない部分が多いと思います。

そう、小説投稿は「わからない」。

だからこそドキドキできるし、だからこそ時にツラくもあり。

この感情は、まるで恋愛。

……………。

なんか最近、本当にそう思うんですよ。

投稿なんかどうでもいいと思っしまえば、気持ちが落ち込むこともないんだろうけど。

でもやっぱり、大好きでうまく行って欲しいから、どうでもいいなんて思えないわけで。

まあとにかく、二次通過することを願いつつ、春の賞に向けて頑張りたいと思います。

写真の整理をしていたら、こんな画像が出てきました。

これ……。

神戸の須磨海浜水族園で撮った写真なんですが……。



ダンボ！？

ねえ、ダンボなの！？

ご覧の通り、ゾウが空を飛ぶ遊具ですが、これはディズニー的にアリなんですか。



屋根付きだから、雨でもへっちゃら！

……とはいえ、ライド系のアトラクションなのに、上方の視界が遮られて空が見えないのは、大きなマイナス点のような気がします。

それにしても、後ろのゾウさん、鼻に風車つけてますね。



ちなみに本物は、この通りです。

さすがと言うかなんと言うか、上のゾウさん達と比べると、ダンボの造形って複雑なんだなあと思えますね。

とまあ、そういうわけで。

特にオチのない話でしたが、今日は以上です。

ディズニーランド、また行きたいなあ……。

スーパーダッシュの通過率を計算してみました。

応募総数 985 作品
一次通過数 188 作品
一次通過率 約 19 %

通過率 2 割と聞くとそこまで難関ではないような気がしますが、985 本のうち約 800 本が落ちると考えると、ものすごく難しいような気がするから不思議ですね。

うん。
表現方法って大事だな。

あと、それから……。
これは根拠のある発言ではなく、あくまで個人的な感想ですが……。

通過・落選を決める一番の要因は、「作品本体の完成度」ではなく、「需要があるかどうか」だと思いました。

極端な話、どれだけ完成度の高い作品を送っても、10 代の読者から見て需要がないと判断されれば、容赦なく一次で落とされるのがラノベの新人賞だなあ、と。

もちろん「自分の作品は高尚すぎて落とされた」と言うつもりはないし、堂々巡りのカテエラ論を展開するつもりもないんですが、「需要>完成度」というのは本当にひしひしと感じています。

実際オイラ、「完成度は高いがラノベではない」みたいなことを書かれて、スーパーダッシュで二次落ちした経験あるからな……。

まあ、アレですね。
完成度が高くて、なおかつ需要がある物を書けたら、それが一番いいんでしょうけど。

当然のことですが、そんな作品が実際に書けるよう、今後も精進しようと思います。

ブログを毎日書いていると言うと、「毎日書いててネタ切れしない？」とたまに聞かれるんですが、切れやしないぜ絶好調だ！

そりゃ、もうね。

何もないところから、文章を使って人を楽しませるのが、作家の仕事ですからね。

いや、まあ。

自分は作家ではなく、単なるワナビですが。

でも、アレですね。

小説投稿を四年近く続けてきた中で、「投稿が苦痛だ」と思ったことは正直何度もありますが、それは思うような結果が出ないから苦痛に感じてしまうわけで。

そうではなく、結果抜きのお話をすれば、執筆そのものはいつだって大好きです。

実際「投稿が苦痛だ」と思うことはあっても、「文章を書くことが苦痛だ」と思ったことは、今のところ生きていて一度もないですからね。

そんな性格なので、この先作家になれる日が永遠に来なくても、文章を書くことは一生続けていきたいと思っています。

……………。

この宣言、もしかして危ない？

一生作家になれず、投稿ブログ「らくだ図書館」を、この先永遠に書き続けるフラグ？

まあでも、「それもまた人生～♪」ということで。

こうして文章を書くことは、自分にとってのライフワーク。

だからこそ、目の前の結果に一喜一憂せず、もっとズシンと構えたいと思うこの頃です。

本日は、ちょっと気取ってバーの話を。

「ブルーハワイ」や「ピニャコラーダ」など、トロピカル・カクテルを注文した時に、ストローが2本ついてきたことはありませんか？

<参考画像>



ちょっ！

オイラー一人で来てるのに、どういう嫌がらせだよ！？

最初はオシャレな羞恥プレイかと思ったんですが、実はコレ、「ストロー2本」がデフォルトなんだそうですよ。

多くのトロピカル・カクテルには、粉々になった氷が入っていますよね。

そんなわけで、1本では吸いづらいので、2本一緒に使って飲むのが正解なんです。

そんなこんなの、カクテル・トリビア。

知っている、ちょっとツウっぽくて格好いいかも？

まあでも、デート中なんかの場合は、あえて知らないフリをするのもアリですね。

「あれ？ これって二人で一緒に飲めってことかな？」

「うふふ、そうね。恥ずかしいけど、そうしようか……？」

↑ みたいな、ね。

会話のセンスが昭和というツッコミはナシでお願いします。

というわけで、本日は突然のカクテル・トリビアでした。
機会があれば、他のカクテルの話もしてみようと思います。

アルク翻訳事典を購入しましたが、自分の名前はありませんでした。

残念だな……。

それなりに自信あったのに、一次すら通らないなんて……。

まあでも、仕方がないか。

英文の翻訳って、それこそ小説執筆と同じくらい、奥が深いものですからね。
趣味感覚で参加しても、激戦を通過できないのは、ある意味当然なのかな、と。

「英語さえわかっていたら翻訳くらい誰でもできる」という認識は、「日本語さえわかっていたら小説くらい誰でも書ける」という認識と同じくらい、途方もない勘違いなんじゃないかな。

だから、落ちても仕方がない……。

そう考えて、自分の心を慰めてみる……。

そうそう。

第 27 回の結果発表と同時に、第 28 回の課題も掲載されました。

落選直後なので「今すぐに！」という気持ちにはなれませんが、締切りは 7 月でだいぶ先なので、心の傷が癒えた頃にひっそり取り組んでみようと思います。

けどやっぱり、入賞者さんの訳文を見ると、自分も同じ文章を訳している分、「さすがだなあ……」と感じますね。

自分の脳ではその単語は浮かばないけれど、言われてみれば「ああ、なるほど！」っていう感覚で、難しいクイズの解答を見たような気分です。

その辺が翻訳の難しい部分であり、そして同時に、一番楽しい部分でもありますよね。

今回は残念でしたが、言葉のセンスをさらに磨いて、また再挑戦したいと思います。

今日の記事は、主人公の性格について。

主人公（視点人物）って、喜怒哀楽が明確な方が、書きやすいですね。
その方がストーリーも進めやすいし、感情移入できる余地だって増えるし。

でも、毎回それじゃ芸がない！
今回は思い切って、無口でミステリアスな主人公に挑戦だ！

そう思って書いた作品があるんですが……。
無口で主役ってというのは、相当難しいもんだなぁと……。

視点キャラとして話を進めるには、どうしてもそのキャラの内面を描写しなければいけないので、思考が筒抜けな感じなんですよ。

三人称で書けば、一人称よりはマシですが、内面描写はやっぱり必要になるわけで。
地の文に行動だけしか書かなかったら、小説じゃなくてシナリオになっちゃいますし。

そんな疑問を感じつつ、とりあえず作品完成！

でもやっぱり、自分が最初に思い描いていた、「無口でミステリアスな魅力」という味は出せませんでした。

原稿を通してザッと見れば、「」カギカッコ付きの台詞は、相当少ないんですけどね。
しかし、地の文で多くを語っているせいで、無口な印象がまったくないっていう……。

結論。
クールで無口なキャラを出したい場合、そのキャラクターは脇役に配置するべし。

まあでも、普段と違う物を書いたことで、おおいに勉強になりました。
自分の表現の幅を広げるためにも、これからも色々な主人公に挑戦したいです。

前回の記事を書いている、ふと思い出したことが。

ドラクエ6の製作秘話なんですけれど。

最初は今の青髪主人公ではなく、テリーが主役候補(!)だったとか。

でも製作を進めていくうちに、「テリーに感情移入してもらうのは、ちょっと難しいんじゃない？」ってことになって、性格的にクセのない今の主人公がデザインされたらしいです。

確かに、テリーは性格がアレなので、主人公には向かないですよね……。

モンスターズでは主役やってるけど、あれは人間不信になる前の状態ですし……。

なんか、あれですね。

自分はテリー好きですが、「謎の剣士」「なかなか出会えない」「コイツ本当に仲間？」という部分が好きなのであって、彼が主役だったら印象はまた違っていたかもしれないなあ、と。

まあとにかく、「クールなキャラは視点キャラに向かない」！

書き方によっては表現できるのかもしれませんが、性格的にクセのない主人公に比べて、書くのが難しいことは間違いないと思います。

話は飛びますが、その部分において、マリみては偉大ですよ。

中盤になると視点キャラが頻繁に変わりますが、個性が違ってもちろん全員に感情移入できる点が、マリみての心底素晴らしい部分だと思います。

そんなわけで、今日は以上です。

そういえば、三日坊主の「マリみて語り」を、そろそろ更新しないとな……。

久し振りに梅田のジュンク堂で買物したら、ポイントカードが始まっていて驚いた件。

あれ？

今までなかったのに、いつから始まったの？

レジのお姉さんに尋ねたら、「先月から」ということでした。

ちなみに、茶屋町の丸善ジュンク堂はまだで、堂島アバンザ店（あと難波店）で利用可能とのこと。

なるほど……。

これからは茶屋町ではなく、アバンザ店に行かなきゃな……。

まあでも、大きい本屋って楽しいですよ。

自分が帰国を決意した理由の一つは、ずばり「本屋へ行けないこと」だったので、いつでも本屋へ行ける今は幸せだと思います。

やっぱり、ほら。

小説投稿をしている以上、最低限の売れ筋情報は、やっぱり抑えておきたいですし。

「売れ筋ならネットでわかるじゃん？」と言われてそうですが、自分で本屋へ出向かないとわからない情報って、やっぱりたくさんあると思うんですよ。

そんな立派なことを言いつつ、本屋へ行っても市場調査などせず、ひたすら旅行コーナーにいるんですが。

今の夢は、「地球の歩き方」を全巻揃えることです。

例によってとらため妄想ですが、受賞したら賞金で買いたいです。

そんなこんなの、本屋談義でした。

それにしても、そろそろ電撃用の作品を書かないとな……。

GAの編集者さんのつぶやきで、『日常モノだからといって、現実と同じように「リアル」を追求するのではなく、あくまでも「リアリティ」が重要』というのがあって（実際は前後がもうちょっと長いんですが）、確かにそうだなあと思いました。

現実で起こり得ることを、現実通りに書いても、確かに面白くないですね。
現実はずでにあるんだから、わざわざ小説を読んでまで、追体験する必要はないわけで。

それなら、小説に必要なものは何なのか？

それはやっぱり、「現実にはいないキャラクター」だったり、「現実ではあり得ないストーリー」だったり、小説ならではの非・現実的な要素だと思います。

でも……。
それをちゃんと書くのって、すごく難しいんですよね……。

ちょっとでも手抜きをすると、その時点で作者の顔が透けて見えて、「しょせんは作り話でしょ？」と言われてちゃうんですよね。

そうさせないために必要なのが、最初に出てきた「リアリティ」だと。
現実ではあり得ない話を、いかに現実っぽく見せるか、それが一番重要なんだと。

つまり、小説家になるためには、「自分の妄想を現実のように語る能力」が必要ってことですね！（爆）

↑こう書くと危ない人のようですが、実はコレって真理のような気がします。

まあ、とにかく。
「リアル」と「リアリティ」は似て非なる物で、小説に必要なのは「リアリティ」。

さっそく、マイ・ワナビ・メモに書きつけておこうと思います。

自分のワナビ・ライブラリー（過去の落選作品群）を見ると、「現代物の少女小説」が割とたくさんあるんですね。

そりゃそうさ！

少女系も書いているのに、通過経験がないんだから、死に弾が増えるのは当然だ！

そんな振られっぱなしの作品を、携帯小説として上げてみようかなあ、と。

少女系ラノベはファンタジー無双という状況ですが、逆に携帯小説は、不思議要素のない現代物がメインっぽいでもんね。

でも……。

投稿作をそのままアップしても、たぶんアクセス取れないだろうな……。

当然ですが、投稿作の場合は「100枚で一つの作品」という前提で書いているので、エンジンがかかって話が始動するまでが比較的長いんですね。

でも携帯小説で賞を狙う場合は、少しずつアップしてアクセスを稼ぐわけだから、毎回ある程度の見せ場があった方がいいのかなあ、と。

書店で売ってる本と違って無料で気軽に読める分、ちょっとでも面白くないと感じたら、読者は閲覧するのをやめちゃいそうですね。

「つつかコレ、あり得なくね？」

「らくだの作品読むのとか、マジ時間の無駄っていうかー」

↑みたいな？（最近の高校生を誤解しすぎ）

まあとにかく、お蔵入りにしたくない少女小説が何本かあるので、携帯小説の賞がどういう存在なのか一度探ってみようと思います。

本日は、オシャレな韓国料理店でランチを食べました。

梅田の三番街にある、「dammi」というお店です。

場所は、三番街 B2F の北東角（ロッセリアの隣り）です。

<http://www.dammi.jp/sanbangai/>

何がオシャレって、



メニューが iPad です！
オシャレさ大爆発です！

初めて行った時は興奮しましたが、周囲を見ても、騒いでいるお客さんは一人もおらず。

あれ？
電子メニューって、もしかして当たり前？

それにしても、iPad 欲しいなあ……。
しかし iPad に手を出すよりも、今はまず先に、PC を買った方がいいかなあ……。

何しろ前はモニターが黒くなるだけで、動作そのものに異常はなかったんですが、今はいきなり強制終了が始まったりしますからね。

データがいつ吹っ飛ぶかわからない、そんなスリリングな執筆環境で書いています。

そんなわけで、今日は以上です。

明日はくまモンの話をしようと思います。

GA の編集さんのつぶやきで、キャラクターを立てて感情移入させるには、そのキャラが「やりたいこと」「やりたくないこと」「許せないこと」を明確にしろという話がありました。

確かに、行動原理を明確にするのは、ものすごく重要なことですよ。それができているかないかで、作品の質って大きく変わると思います。

ただ……。
これもまた、うまく表現するのは難しいなあと……。

一概にはくくれませんが、最近の少年系ラノベって、「複数ヒロイン+受動的な主人公」が大半じゃないですか？

言葉は良くないけど、ギャルゲーみたいな。
この中からお気に入りの子を選んでね、みたいな。

なので自分もそういう作品を送ったら、「主人公の態度が優柔不断で、読みながら感情移入しにくい」と言われてしまった経験があるんですよ。

うん、自分もそう思ってるよ。
でも今の流行的には、流され主人公の方がいいのかと思って、それで書いたんだ。

そんなわけで、行きあたって結論。

「複数ヒロインからモテる主人公を書きつつ、優柔不断な男に見せないためには、主人公を恋愛に鈍感な性格にするしかない」

どうよ？
これが今のラノベだろ？

まあでも、その結論に納得してしまったら成長できないような気がするので、この問題についてはもっと何作も作品を書いて考えてみたいと思います。

くまモン、ゲットだぜ！



ゆるキャラ界の頂点に君臨する、熊本のPRキャラクターくまモン。

そのくまモンの石鹸フィギュア(?)が、日本旅行・JR大阪駅支店にて配布されていたので、この通りゲットしてきました。

ちなみに、ゆるキャラといえば。

パロディゆるキャラが主役の小説を書いて、数年前の電撃に投稿したことがあるんですが、当然ながら余裕で一次落ちでした。

うん。

そういう結果だとわかっていたよ。

でも思うんですけど、「一次落ち＝無価値」ってことはなく、一作書いたらどこかしら成長しているはずなので、書きたい物はとりあえず書いてみるのがいいんじゃないかと。

受賞に繋がらなかったという意味では無価値かもしれませんが、でも「どうせ落ちるし」と言って何も書かないと、自分自身が成長することもないわけで。

賞の結果はもちろん大事なんですけど、書く過程自体を楽しむことも大事ですよ。

そんなわけで、くまモンとはさほど関係ない、小説投稿の話になりましたが、書きたい物を書くというスタンスは、今後もずっと変えずにいたいと思います。

もし自分が幹事になって、投稿者オフ会を開くとしたら、集会名は「激烈ワナビナイト」にしようと思います。

参加の募集もその名前。

お店の予約もその名前。

「いらっしゃいませ、何名様ですか？」

「あ、『激烈ワナビナイト』で予約した常木らくだです」

……危険人物だと思われそうだな。

いや。

普通の居酒屋の店員さんは、ワナビって単語を知らないか。

うん。

それなら危険人物ではなく、要注意人物だと思われる程度で済むな。

そんなとらため妄想をしつつ、風呂上がりのキリン一番搾り。

いや、とらため妄想じゃないですね。

オフ会なんてしませんし、単なる純粋な妄想です。

というわけで、前置きが無駄に長くなりましたが、作品のタイトルって大事ですよ。相手に「どんな話なんだろう？」と思わせたら、とりあえず掴みの部分は勝ちというか。

そういう意味で、「好きです、ザビエル様っ！」は大成功だったと自画自賛。

好きか嫌いかはともかく、内容が気になりますか？

まあ実際は、パロディ風味のトラベル宣教師コメディなんですが。

というわけで、変な前置きでスペースがなくなったので、続きは次回。

明日も引き続き、作品のタイトルについて語ろうと思います。

くまモン石鹸を使ってみたけど、意外と泡立ちもよく、普通に使いそうな感じでした。

ただ一つだけ、残念なのは……。

石鹸なので当たり前ですが、毎日使うにつれ、形が崩れていく点ですね……。

こんな時ドSな感性の持ち主であれば、くまモンが日に日に壊れていく様子を楽しめるのかもしれませんが、自分はドSではないのでそんな猟奇的な愛し方ができるはずもなく、ただひたすらに残念な限りです。

それはそうと、「激烈ワナビナイト」は架空の集会ですので、お間違いなく……！

オフ会を開く予定はなく、常木らくだが勝手に考えた、脳内エア飲み会です……！

でも、アレですよ。

数日前にも似たようなことを書きましたが、架空の出来事を真剣に想像するのは、小説家に必要不可欠な能力だと思いませんか？

だって言ってみれば、我々投稿者という存在は、架空の人物の性格やしゃべり口調、はては生い立ちや人生観に至るまで、日々真剣に考えているわけですからね。

普通であれば、それは単なる想像で終わってしまいます。

でも、想像を創造に変えられるのが、私たち投稿者という存在です。

結果が一次落ちだろうが何だろうが、小説を一作書いて完成させる力は、おおいに誇っていい能力だと思うんですね。

想像から創造へ。

そして、創造から感動へ。

そんな企業広告のような言葉で自分を励ましつつ、今日のブログは以上です。

一迅社の一次発表がありました。

応募総数 269 本

一次通過数 5 本

一次通過率 1.8 %

ラノベ界のぶっちぎり最難関レーベル、一迅社。

その狭き門っぷりは、電撃をはるかに凌ぐ。

『一次選考通過者の皆様には評価シートをお送りさせていただきます』って。

この世に5枚しか存在しない評価シートとか、どんだけ激しくレアなのよ。

そんな一次落選からの逆恨みブログ。

まあでも。

今回は例年と違って、一次発表が早かったので、そういう意味ではよかったです。

作品を改稿するにしても、選考中の話については、手直しをためらっちゃいますもんね。

やっぱり落選が確定している方が、安心して改稿に取り組めるというか。

べっ、別に強がりじゃないんだからね！

安心して改稿に取り組めるから、落ちてよかったと思ってるのよ！

とにかくそういうわけなので、フリーになった作品をどう扱うか、この後考えてみようと思います。

それにしても、近ごろ通る賞が完全に固定化しているので、落ちる賞にチャレンジしようという意欲がわかないんですよね……。

まあでも、挑戦者という立場である以上、守りに入る必要はどこにもないわけで。

過去の経歴が落選の賞も含めて、どこに送るか、前向きに考えてみようと思います。